



# A 試合会場レポート

インターハイ男子

# バレーボール No. 9

試合番号 003

開催日 2024/08/04

会場：ダイハツ九州アリーナ

観客数:	開始時間: 12:15	終了時間: 13:55	試合時間: 01:40	主審: 平田 敬基	副審: 佐藤 哲也
------	-------------	-------------	-------------	-----------	-----------

駿台学園

監督: 梅川 大介  
コーチ: 土岐 大陽

通算: 1勝 0敗  
勝点: 2

3	25	第1セット 【00:23】	23	1
	20	第2セット 【00:22】	25	
	25	第3セット 【00:21】	18	
	25	第4セット 【00:25】	23	
		第5セット 【 】		

勝点 2      【 】内はセット時間      勝点 1  
0内は交代選手

東福岡

監督: 藤元 聡一  
コーチ: 小藤 稔

通算: 0勝 1敗  
勝点: 1

## <監督コメント>

## <監督コメント>

25	櫻井 信人	植草 光稀	首藤 柚希	比嘉 晃哉	23
	( ) ( )	( ) ( )	(糸瀬 翔馬)	( ) ( )	
	高瀬 大馳	敷浪 幸一	照屋 舜	立石 結大	
( ) ( )	( ) (島 良太郎)	( ) ( )	( ) ( )		
	三宅 綜大	川野 琢磨	松下 晃大	安座間 瑠新	
( ) ( )	( ) ( )	(黒野 希輔)	(坪井 隼矢)	( ) ( )	
リベロ: 谷本 悦司			リベロ: 金城 哉汰		
20	櫻井 信人	植草 光稀	比嘉 晃哉	立石 結大	25
	( ) ( )	(小野田 瑠)	( ) ( )	( ) ( )	
	高瀬 大馳	敷浪 幸一	首藤 柚希	安座間 瑠新	
( ) ( )	( ) (島 良太郎)	(糸瀬 翔馬)	(坪井 隼矢)		
	三宅 綜大	川野 琢磨	照屋 舜	松下 晃大	
( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	(黒野 希輔)	( ) ( )	
リベロ: 谷本 悦司			リベロ: 金城 哉汰		
25	川野 琢磨	三宅 綜大	首藤 柚希	比嘉 晃哉	18
	( ) ( )	( ) ( )	(糸瀬 翔馬)	( ) ( )	
	敷浪 幸一	高瀬 大馳	照屋 舜	立石 結大	
( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )		
	植草 光稀	櫻井 信人	松下 晃大	安座間 瑠新	
( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	(黒野 希輔)	(坪井 隼矢)	
リベロ: 谷本 悦司			リベロ: 金城 哉汰		
25	植草 光稀	敷浪 幸一	比嘉 晃哉	立石 結大	23
	( ) ( )	(堀内 晴隆)	( ) ( )	( ) ( )	
	櫻井 信人	川野 琢磨	首藤 柚希	安座間 瑠新	
( ) ( )	( ) ( )	( ) (坪井 隼矢)	( ) ( )		
	高瀬 大馳	三宅 綜大	照屋 舜	松下 晃大	
( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	(黒野 希輔)	( ) ( )	
リベロ: 谷本 悦司			リベロ: 金城 哉汰		
	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	
	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	
	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	
リベロ:			リベロ:		

## <要約レポート>

決勝は、昨年の覇者を胸に地元・北部九州の地で優勝を目指す福岡県代表の東福岡高等学校と、前回大会の王者・東京都代表の駿台学園高等学校の対戦となった。

第1セット、序盤は両チームともに多彩な攻撃を見せ、サイドアウトを繰り返す展開となった。均衡を破ったのは東福岡、組織的なブロックで駿台のスパイカーを阻み、リードした。さらに途中出場の7番坪井隼矢、8番糸瀬翔馬が得点を重ねるも、駿台学園は5番高瀬大馳の攻守にわたる活躍で追いつく。終盤は4番櫻井信人が強力なジャンプサーブとバックアタックで突き放して、駿台学園が第1セットを先取した。

第2セット、駿台学園の攻撃に対し、東福岡のスタメン唯一の1年生・9番比嘉晃哉が渾身のディグを見せる。加えてセッター5番首藤柚希が縦横無尽のトスワークで駿台学園のブロッカーを翻弄し、終始優勢で試合を進めた。追う駿台学園は4番櫻井の連続得点で一時間点とするも、東福岡は6番安座間瑠新やリベロ11番金城哉汰からの巧みなトスで攻勢を緩めず、1度の逆転も許さずにセットを取り返した。

第3セット、リードしたのは駿台学園。東福岡の鋭いスパイクにレシーブを乱されるも、リベロ7番谷本悦司がフェンスを跳び越えてボールを繋ぐ。その氣迫に応えて1番川野琢磨が高い打点からバックアタックを連発し、駿台学園が再びセットを取った。

第4セット、またも駿台学園がリード。6番植草光稀が相手ブロックを利用して得点すると、負けじと4番櫻井、1番川野が際どいコースにスパイクを打ち込む。東福岡は、キャプテン1番照屋舜の速攻を主軸に速い攻撃で畳みかけ、また3番松下晃大が徹底マークのブロックを弾き飛ばすも、点差を詰めることができない。最後は駿台学園レフト4番櫻井のスパイクで勝利、駿台学園高等学校が2年連続での夏の全国制覇を果たした。

作成者: 梅崎 幸人